



NIPPON BEARING

3月20日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【県境を 毎年綱引きで決めてしまう 地域がある】

綱引きは、誰もが一度は経験したことのある身近なスポーツです。

そんな中、【綱引きで県境を決める】という一風変わった行事を行っているところがあります。

長野県と静岡県の間にある兵越峠では、国盗り合戦ならぬ綱引き合戦が行われています。

綱引きの勝敗によって、行政で定められた県境が移動することはありませんが、勝負は真剣そのもので、地域を盛り上げることに貢献しています。

そもそも綱引きは、いつ頃・どこで始まったのでしょうか？

綱引きは、世界各地で古代より行われていました。儀式や信仰のため、豊作や豊漁を祈願し占うため、領土を獲得するため、等々、様々な場面で行われてきました。

時を経て、オリンピック競技にも採用されます。1900年～競技として行われますが、種目の増加等いくつかの理由により1920年を最後に削除されました。

直動ベアリングのパイオニアである日本ベアリングの《モノづくり》への姿勢は、単に良い製品を作り出すだけに留まりません。

〈営業部門〉は、高度なニーズに対応できるよう技術的な知見を深め、その後の設計部門への円滑な橋渡しを担い、〈設計部門〉は、営業部門から受け取ったお客様のニーズに対して、高い技術力により高品質な製品を開発する。そして、その製品を〈製造部門〉が、確実に製品化しお客様のもとへと届ける。

三部門が一体となりチームワークを発揮していくことで、日本ベアリングは高次元の《モノづくり》を実現させているのです。

古代から現代まで、綱引きが重要な事柄を判断する行事や手段となっているのは、綱引きが単なる力比べや技術を競うものではなく、チームワークや精神面によって勝敗が分かれるスポーツ所以でしょう。

日本ベアリングのモノづくりが、チームワークによって完成する様に通じるものがありますね。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】